

わがまち自慢

村長室から



なかぐすくそん
沖縄県中城村
はまだ けいすけ 村長
濱田 京介



「子育てしやすいまち」 「勢いのある街」として高い評価

喜ばしいことに中城村は、昨年、日本経済新聞による「子育てしやすいまち」ランキングの全国第2位、今年の週刊ダイヤモンド誌の「勢いのある街」ランキングの全国第9位にもランクインいたしました。こうした注目を集めたためか、中城村の人口は今年6月に2万人を突破し、全国でも4番目に人口の多い村となっています。今年9月の1ヶ月間でも人口が73人増加し、世帯数も20世帯増加しました。

中城村で最も人口流入が多いのは、南上原地区です。この地域は20年ほど前から区画整理が進められており、10年ほど前の大型スーパーの進出をきっかけに人口が増加し始めた地区です。この地区は、那覇市から車で30分程度であり、宜野湾市、沖縄市などの都市部へのアクセスも良いという大きなアドバンテージを持っています。

また、保育所や病院で働く従業員のための事業所内保育所の設置も進めました。これは沖縄県内では中城村が初めての事例となっています。また、児童の増加に伴って、この地区に小学校も新設しました。さらに、妊娠・出産への支援として、南上原地区の認定保育所のすぐ隣の敷地に、産婦人科・小児科のある病院を誘致しました。この病院の最大の特徴は「病児保育」を行っている点です。熱を出した子どもを、保護者が仕事を休んで迎えに行かなくてよいように、保育所や幼稚園から直接病院に預かってもらえるようになっています。

これらの子育て支援策に加え、商店、住宅、病院、学校などの整備が進んだことも連鎖して、中城村の人口は増加し続けています。

このことが「子育てしやすいまち」「勢いのある街」としての評価に繋がってきているのではないのでしょうか。人口増加は多くのビジネスチャンスを生み出すという意味では、中城村は非常にポテンシャルの高い村だと感じています。

中城城や護佐丸を 観光資源のみならず地域の誇りに繋げる

子育てしやすい環境を整えるだけでなく、子供たちに地域への愛着や誇りを持ってもらうことも非常に重要だと考えています。

村内にある中城城は、首里城を起点として幸地城、中城、勝連城に至る「ハンタ道」と呼ばれる琉球王朝時代の街道上に位置する城で、琉球史上、重要な役割を担っていました。ご存じのように、世

界遺産に登録されている中城城は、先の大戦で大きな被害を受けることなく当時の姿をそのままに残しています。

また、中城城にまつわる護佐丸盛春という「悲劇の英雄」の物語も有名です。護佐丸は中城の領主で中城城を増築した首里王朝の忠臣でしたが、勝連城の城主・阿麻和利の謀略によって、逆臣とされ

減ばされます。護佐丸は私たちの誇りですが、沖縄県では「郷土史」の授業がなかったためか、あまり知られていませんでした。

そこで、中城村では文科省の教育課程特例校制度を活用し、小学校から中学校1年生までの教科の中に、郷土史を学ぶ「中城ごさまる科」を設けました。このような取り組みが行われているのは県内でも中城村だけですので、他地域にも発信していきたいと考えています。琉球史や中城村の歴史・文



南上原地区のうえむら病院。右側にあるのは保育園

事業所内保育所



整備が進められてきた南上原地区



世界遺産に登録されている
中城城



中城城の城壁に映し出される、護佐丸と阿麻和利の戦いを物語にしたプロジェクションマッピング



村の台地の端に続く「ハンタ道」



今年5月に開館した
護佐丸歴史資料図書館

化を学ぶことのできる施設として整備を進めてきた「護佐丸歴史資料図書館」も、今年の5月30日（ごさまるの日）にオープンいたしました。郷土史の学習を通して、子供たちが大人になっても地元を誇りや愛着心を持ち続けてくれると、大変嬉しく思います。このことが、村で育った子供たちの定住やUターンにも繋がってくれることを期待しています。

た。これまでに、「中城護佐丸まつり」、歌舞伎の公演、アーティストによるコンサートなど、様々なイベントを開催しています。どのイベントも大好評で、とくに、護佐丸伝説を大迫力の音と映像、演劇で綴る「中城城跡プロジェクト ションマッピング」には、1日で8千人もの観客が訪れます。イベント開催の効果もあり、中城城を訪れる観光客は年間13万人を超えています。

さらなる活性化を
スポーツキャンプや大型MICEの誘致で

さらに、中城村では、スポーツによる地域振興にも力を入れていきます。吉の浦公園のグラウンドなどのスポーツ施設や公共施設を整備し、ガンバ大阪をはじめとしたJ1の3チームのほか、なでしこジャパンのキャンプを誘致しました。これには、2万人ほどの観客が訪れ、大きな話題にもなりましたが、それ以上に効果が期待されるのが子供たちの人材育成です。子供たちは、生でプロの選手を見ることができ、直接指導を受けることができます。サッカー教室にも参加できます。その成果が、中城中学校のサッカー部は元々それほど強くないチームでしたが、今年も県大会に出場するまでに実力をつけました。もともと中城村にはスポーツの素地があり、プロ野球選手、関取力士、ボクシング世界チャンピオンなど、一流選手が中城村から生まれています。スポーツに関心の高い地域でもありますが、スポーツによって地域を盛り上げ、子供たちにも夢や誇りを持ってもらえる村にしていきたいと考えています。

MICEの誘致などによって、さらに「住みやすいまち」「住み続けたいまち」となるよう力を注いでいきたいと思っています。このような環境で育った子供たちが、大人になってからも地域に愛着を持ち、地元を盛り上げていくことを、切に願っています。（談）

中城城の歴史・文化を子供たちに伝えていくだけでなく、地域外にも発信し、住民にとって誇りを持てる地域となるよう力を注いでいきたいと思っています。

中城中学校のサッカー部は元々それほど強くないチームでしたが、今年も県大会に出場するまでに実力をつけました。もともと中城村にはスポーツの素地があり、プロ野球選手、関取力士、ボクシング世界チャンピオンなど、一流選手が中城村から生まれています。スポーツに関心の高い地域でもありますが、スポーツによって地域を盛り上げ、子供たちにも夢や誇りを持ってもらえる村にしていきたいと考えています。

中城村は、昔から農業が盛んな地域でもあります。特に、特産品の『島にんじん』は、沖縄県内の生産量の約7割を中城村が占めています。鮮やかな黄色で、糖度が高く、沖縄料理にも大変よく合う食材として人気があります。村内の事業者は、『島にんじん』を使ったカステラ、ドーナツなども製造しており、私としても、とてもおススメしたい商品です。

近年では、マンゴーの生産にも力を入れており、ふるさと納税の返礼品としても使わせていただいています。

今後は、これらの農産物を活かした商品開発・販売を進め、6次産業化に繋げていきたいと考えています。

いずれにしても、子育て支援や教育の充実、観光振興、スポーツ振興などの取り組み、さらには

村の特産品『島にんじん』

『島にんじん』の加工品



村の東部に広がる海岸線



吉の浦公園のグラウンド